

令和7年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 58 ） 学校名 豊田市立本城小学校

1 テーマ

ふるさとのひと・こと・ものに愛着をもち、地域を拓く子どもの育成
～ふるさと学習・城山学習を通して、子どもの社会力を育てる～

2 ねらい

本校がある小原地区には、「小原和紙」「打ちはやし」などの伝統文化が現在に伝わり、文化継承の拠り所となっている。また、「四季桜」は小原地区で愛されている植物（花）であり、毎年11月には「四季桜まつり」が開催され、小原地区の伝統行事となっている。しかし、年々過疎化・高齢化が進み、小原地区の児童生徒数は減少してきており、地域の活力が失われつつある。そのため、人と人がつながってよりよい社会（地域）を作ろうとする力である「社会力」を小学校段階から育てることが重要と考える。

そこで、小原地区の伝統文化を学び継承すること（ふるさと学習）、地域の「ひと・もの・こと」を生かした学び（城山学習）を通して、子どもたちの地域理解を深め、地域への誇りや愛着を育てる。また、自分たちのふるさと「小原地区」の未来を考え、より豊かで住みよい地域へと発展させていこうとする児童の意欲を高めていきたいと考える。さらに、地域をよりよくするために、学んだことを積極的に発信したり、地域に働きかけたりするなど、地域の役に立つ活動や地域を発展させる活動に取り組むことで、子どもたちの「社会力」を育てていきたいと考える。

3 活動内容

◆ふるさと学習として地域や本校の伝統文化である「小原和紙」「本城打ちはやし」「四季桜の挿し木」「小原歌舞伎」を取り上げ、活動する。

(1)「小原和紙」

- ・発達段階を考え、全学年で小原和紙を取り入れた個性豊かな作品づくりに取り組む。その過程で、地域講師の指導を受けながら、和紙制作の伝統的技術を学び、継承する。また、完成した作品は「和紙作品展」に出品したり、小原文化まつりに展示したりして、地域の方々に子どもたちの取組の成果を見ていただく。
- ・全校児童が、和紙を使って「軽トラあんどん」作品を制作し、地域を盛り上げる活動に参加する。
- ・5・6年生は地域で行われる「カンゾカシキ」（楮の皮を蒸す作業）に参加し、和紙づくりの工程をより深く理解する。

(2)「本城打ちはやし」

- ・約40年前に豊田市日面町の「おはやし」を習ったことで始まった「本城打ちはやし」に、全校児童で取り組み、運動会・四季桜まつり・城山学習発表会・卒業式（門送り）などで発表する。また、「打ちはやし」の演奏・発表を通して、「社会力」「発表力」「表現力」を育成する。

(3)「四季桜の挿し木」

- ・小原地区の木でもある四季桜は、1820年ごろ、小原の医師、藤本氏が植えたのが親木となり広まったと伝えられている。3・4年生が隔年でこの木の挿し木体験活動を行い、卒業時に持ち帰って自分の家の近くなどに植えるという活動を行うことにより、地域の誇りを受け継ぐ心を養う。

(4)「小原歌舞伎」

- ・小原歌舞伎保存会の皆様のご指導のもと、発達段階に応じて地域に伝わる小原歌舞伎に親しむ活動を隔年で取り入れる。低学年はお面づくり、中学年は自分の顔への隈取、高学年は所作（実際に演技をする）体験を行う。

◆「城山学習」として、地域の「ひと・もの・こと」についての学びを生活科・総合的な学習の時間に位置付ける。

- ・米づくり、野菜づくり、四季桜、小原和紙、小原地区の史跡などについて、地域の方から学び、地域理解を深め、地域への誇りや愛着をもつとともに、お世話になった方への感謝の気持ちをもてるようにする。また、学習の成果を保護者をはじめ広く地域にも発信し、地域をよりよくしていく活動へとつなげていく。

○「城山学習」（総合的な学習の時間・生活科）

- ・前期…学年テーマに迫る課題を設定し、地域素材にかかわる学びを通して、追究を深める。
- ・後期…学んだことをまとめ、発表方法を工夫し、学習発表会等の場で学びの成果を発表する。

4 成果と課題

本校の取組は保護者にも広く周知されており、保護者アンケートでもよい評価をいただいております、年々「よい」評価が上昇している。

【保護者アンケート項目6】

「特色ある学校づくり推進事業を活用し、特色ある教育活動を行っているか」

	とてもよい (%)	よい (%)	わからない (%)
令和5年度	38.9	55.6	5.6
令和6年度	71.4	28.6	0.0
令和7年度（本年度）	81.0	19.0	0.0

(1) 小原和紙

今年度も、地域の和紙作家二村純生氏を講師に招き、各学年が2回ずつ和紙制作の指導を受けた。制作した作品は、交流館や和紙のふるさとにも展示をし、地域や一般の方にも鑑賞していただくことができた。5・6年生は、1月に和紙のふるさとで行われた「カンゾカシキ」という、楮の皮を蒸す作業にも参加し、和紙ができるま



での工程をより深く理解することができた。10月には全校児童であんどんを制作し、「軽トラあんどんパレード」に参加することにより、地域の盛り上げに寄与することができた。

(2) 本城打ちはやし

毎週火曜日の昼放課に、全校で打ちはやしの練習を行っている。練習時には高学年が低学年に対して親切に指導をする姿が見られている。打ちはやしの発表の場は、運動会、四季桜まつり、城山学習発表会、卒業式（門送り）の4回があり、それぞれが発表の場を目指して練習に取り組んでいる。発表直前には、地域の太鼓講師尾形かをる氏を招き、太鼓の打ち方、姿勢などの指導を受けた。11月に地域で行われる四季桜まつりでは、ふれあい公園のステージで全校児童が演奏し、多くの方に見ていただくことができた。



(3) 四季桜の挿し木

5月に、地域講師安藤篤氏を迎え、3・4年生が四季桜の挿し木体験を行った。地域のあちこちで見られる四季桜を増やすのは容易ではなく、繊細な作業や手間暇が必要なことを学ぶことができた。3・4年生は継続して世話をし、卒業時に持ち帰って植えられるようにしていく。



(4) 小原歌舞伎

12月に、小原歌舞伎保存会の永江正人氏をはじめ多くの皆様に来ていただき、学年ごとに小原歌舞伎の体験を行った。低学年は、役者の隈取を見ながら白いお面にマジックで隈取を描く活動、中学年は、実際に自分の顔に隈取をする活動、高学年は、着物を着て傘を持ち、「白浪五人男」の一場面を演じる所作の活動を行い、地域に伝わる小原歌舞伎への理解と愛着を深めることができた。



(5) 城山学習

<低学年>

花や植物、野菜の栽培活動を通して、自然の素晴らしさ、すごさを実感することができた。また、地域の施設や店などの見学を通し、地域に対する親しみや愛着をもつことができた。

<中学年>

「小原ニフレル」というテーマで、地域に伝わるもの・こと（和紙・民話・四季桜など）の追究学習を行ったことにより、地域に対する理解や愛着が深まった。学習を行う際には、実際に見学や体験をしたり、講師の方から直接指導をしていただいたりしたことにより、より理解が深まった。

<高学年>

地域の方から指導を受けながら米作りに取り組み、自分たちでもバケツ稲を育てて、地域の特産米「ミネアサヒ」の栽培を行った。収穫した米は、四季桜まつりの時に配布し、この地域の素晴らしさを広めることができた。



5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・取組を行うごとにホームページを更新し、各学年や学校全体での活動の様子を紹介した。
- ・学校だよりや学年だよりで、取組の様子を紹介した。
- ・2月の城山学習発表会で、保護者や地域の方に対し、学習の成果を各学年が発表した。
- ・和紙作品を交流館、和紙のふるさとに展示し、多くの方に見ていただいた。
- ・打ちはやしを運動会、四季桜まつりで披露した。また、2月の城山学習発表会、卒業式の門送りでも発表する予定である。